

令和4年3月1日

茨城県立水戸第一高等学校
硬式野球部後援会
三の丸倶楽部会報

入魂

第28号

発行人 事務局長 森 利克
316-0026
日立市みかの原町 2-15-8
TEL/FAX : 0294-53-1351
E-mail : ihm2158@ak.wakwak.com

I 特集：水戸一高硬式野球部創部130周年記念試合



水戸一高硬式野球部の創部は明治24年（1891年）、全国でも屈指の歴史を誇ります。令和3年（2021年）に創部130周年を迎えたことを記念し、令和3年11月28日、ノーブルホームスタジアム水戸に同じ県立の進学校で近年も甲子園出場実績のある磐城高校（福島県）を招き、水戸一高硬式野球部創部130周年記念試合を開催いたしました。

水府倶楽部では、約3年前からこの記念試合の検討を開始し、高村校長、木村監督など水戸一高とも連携しながら、招待相手校の決定や運営方法等の準備を進めてきました。また、新型コロナウイルスが猛威を振るう中、開催中止も視野に入つつ数か月前から感染状況を見極めてきましたが、幸いなことに落ち着いた状況にあったため、感染防止対策を徹底したうえで決行することとしました。



開会式

開催準備と当日の運営については、水府倶楽部の役員と有志会員の他、父母会、三の丸倶楽部幹事の皆様のご協力をいただきました。

当日は穏やかな晴天に恵まれました。この日は、来賓として飛田穂洲先生ご本家代表の飛田憲生氏、磐城高校野球部OB会会長の岡光義氏ほか役員様、知道会会長の稲葉節生氏、そして三の丸倶楽部事務局長の森利克氏にご来場いただきました。春の県大会ベスト4、夏の選手権大会県予選ベスト8という成績を残したこともあって、多数のマスコミも取材に訪れました。

両校選手が整列の中9時30分より開会式を開始。水府倶楽部藤田会長による主催者挨拶、知道会稲葉会長による来賓挨拶、両校の校歌演奏・校旗掲揚などを行いました。

両校シートノックを経て、飛田憲生氏による始球式の後、先攻磐城高校でプレイボール。

試合のイニングスコアやスターティングメンバーは右の通りです。守っては秋田投手が自身初の完封。70～90キロ台の直球とさらに遅い変化球でテンポよく打たせてとり、磐城高校を7安打に抑えました。内外野も無失策で秋田君を支えました。打っても序盤に先制し、終始試合の主導権を握りながらの勝利でした。

試合終了後、閉会式が行われ、飛田憲生氏から磐城高校野球部主将に「飛田穂洲楯」が手渡され、その後、優秀選手賞の表彰が行われました。勝利チームから1名選ばれる最優秀選手には、秋田投手が選ばれました。閉会式終了後には、両校および関係者にて記念撮影が行われ、記念試合の一連の行程は盛会裏に終了しました。

翌日以降には、朝日新聞や茨城新聞、スポーツ報知、茨城放送やネットニュースなど多くの媒体でこの記念試合の様子が伝えられました。秋田投手の「超遅球」はマスコミにも印象が強かったようで、記念試合の記事には、必ずと言ってよいほど秋田投手のことが取り上げられていました。

.....

この記念試合を後援いただいた三の丸倶楽部様をはじめ、記念試合の開催にあたりご協力をいただいた皆様に心より御礼申し上げます。また、この試合を目標に準備をし、好い試合をしてくれた選手達、木村監督はじめ指導陣各位にも感謝したいと思います。

当日は、130年の歩みを振り返ったパンフレットを作成し来場者に配布しました。今後も、水戸一高硬式野球部がさらに50年、100年と輝き続けながら歴史を重ねていけるよう、我々水府倶楽部も現役員達を支援していきたいと考えております。三の丸倶楽部の幹事および会員各位におかれましては、引き続きご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

船橋信正（三の丸倶楽部幹事、水府倶楽部幹事長）



試合日: 令和3年11月28日(日) ノーブルホームスタジアム水戸
天候: 快晴 試合時間: 1時間32分(10:29~12:01)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
磐城	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
水戸一	0	2	1	0	0	0	0	0	X	3

出場メンバー

1番	センター	中村	(2年)
2番	ショート	村田	(1年)
3番	サード	高村	(2年)
4番	外野	中山	(2年)
5番	キャッチャー	河原井	(2年)
6番	レフト	野口	(2年)
7番	ライト	内田	(2年)
8番	ピッチャー	秋田	(2年)
9番	ファースト	眞田	(2年)

三塁打: 中村(2回)

二塁打: 野口(6回)

単塁打: 中村(1回) 中山(3回) 内田(3回) 秋田(4回)



II 石井連藏先生記念碑建立 水府倶楽部副会長 黒木 雅宏 (S58年卒)

令和3年12月4日(土)午前11時より、石井連藏先生記念碑建立除幕式を母校に於いて、早稲田大学野球部小宮山悟監督をお招きし挙行政致しました。当日は学校長ならびに知道会・三の丸倶楽部・水府倶楽部各後援者の皆様にご参集していただき盛会となり新聞各紙にも掲載されることとなりました。飛田穂洲先生記念碑とともに永遠に水戸一高硬式野球部を見守り続けてくださいます。

石井連藏先生は昭和7年久慈郡大子町に生まれ、昭和23年に水戸一高に入学され野球部のエースとして昭和25年夏の甲子園予選北関東大会決勝戦では宇都宮工業と対戦し準優勝されました。

昭和26年早稲田大学に進学し東京六大学野球リーグにおきましては、2年生からエースとなり4年生の時には『主将・エース・4番打者』して大活躍され在学中3度の優勝を経験しました。卒業後は同監督に就任し伝説の早慶六連戦を指揮され在任中に4度の優勝に導かれました。

野球関係者の悲願でありました日米大学野球大会開催にも尽力され、令和2年1月に野球殿堂入りされました。

石井連藏先生の功績を称え後世まで受け継ぐため記念碑を建立しました。



令和3年12月4日(土) 石井連藏先生記念碑建立除幕式
後列左から二人目が小宮山早大監督



飛田穂洲氏の胸像と並ぶ記念碑

石井連藏先生の功績を称えて昭和二十三年水戸一高に入学し野球部のエースとして昭和二十五年夏の甲子園予選にて北関東大会準優勝早稲田大学野球部では優勝三回、投打に活躍し主将を務める。同監督に就任し伝説の早慶六連戦を指揮、在任中4度の優勝に導く。野球関係者悲願の日米大学野球大会にも尽力、令和二年一月野球殿堂入り。石井連藏先生の功績を称え後世まで受け継ぐためこの地に記念碑を建立する。

1. 「為せば成る」

昭和38年卒 川又 諭

「喜寿を超えた年寄りには静かに声援を送るのが仕事である」と承知しておりましたが、同期の事務局長森さんから原稿の依頼を受け、「水戸一野球部への思い」を拙文ではございますが、ご披露させていただきます。

小生と野球との関係は、少年時代の草野球は別にして、40歳後半に仕事の当て職として、社会人野球の日立製作所野球部部長を拝命したことに始まります。野球部長といっても野球技術に関することは、すべて監督任せで、小生の仕事は運営予算の獲得、練習場や寮などの環境整備、選手引退後の仕事の斡旋などが主なものでした。しかし、試合になれば、主な試合はほとんどベンチに入り、選手たちを激励することも大事な仕事であり、選手たちの心の動きにも気を配っておりました。

こんなことがありました。東京ドームで勝っている試合を土壇場9回裏の守りでタイムリーエラーをし逆転負けしたことがありました。その夜のミーティングでその選手を責めずに「組織としてのチームの気の緩みを反省し次に生かせ」と訓示しました。翌年、その選手が、北関東予選で7回まで4点差で負けていた試合で逆転の口火となるホームランを打ってくれました。昨年の仲間の「借り」を返すべく懸命に練習をしたと、その選手は小生に語ってくれました。「野球とは筋書きのないドラマである」と言いますが、こうした経験を何年も繰り返すうちに、完全に野球の虜になってしまいました。

「三の丸倶楽部」の発足時に森さんから、入会依頼があった時、素直に了解したのもこうした伏線があったからだと思います。我々が高校時代には今のような「全校応援」のようなものではなく、ほとんど、母校の野球には関心がありませんでしたし、応援に行った記憶もありません。よって、「三の丸倶楽部」に入り、初めて応援に行った次第ですが、正直、驚くとともに感激しました。勿論、野球技術においては社会人野球とは較べものにはなりません、プーにおける態度に心を動かされました。まず、「明る



1998年7月東京ドーム 前列左から二人目が筆者

さ」です。試合中、選手全員嬉々としてプレーに取り組んでおり、応援している我々までもが楽しい気持ちになりました。そして、「ひた向きさ」です。必死に守り、全力疾走し、しっかり振り抜く、こうしたことを手を抜くことなく、全身全霊でプレーする姿に清々しさを覚えました。加えて、「組織でプレーする」ことが当たり前のこととしてチームに浸透していると感じました。選手同士が声を掛け合う、ピンチの時に内野手がマウンドに集まり円陣を組む(終わった後ピョンと跳ねるのもほほえましいものでした)、初々しさと共に連帯感を感じました。こうしたことで「高校野球」の魅力にも取りつかれ、夏の県大会はほとんど欠かすことなく応援に行っております。昨年の試合も4試合すべて応援に参りました。今までの集大成のように大活躍で、大いに感激いたしました。

前に「野球は筋書きのないドラマ」と申し上げましたが、人生は野球以上に筋書きのないドラマです。特に現在のように想像を絶するような変化が続く昨今、何が起こっても不思議ではありません。どうすればいいか考えているだけでは前には進みません。まず行動し、諦めず、達成させる強い意志を持ち続けることが大事なことと思います。その結果は問うものではありません。

「為せば成る 為さねば成らぬ何事も 成らぬは人の為さぬ成りけり(上杉鷹山)」。この精神が野球を通して培われると信じております。頑張ってください。

2. 令和3年7月30日茨城新聞記事から

水戸一の活躍に義父思う

7月21日付の高校野球茨城大会の記事を感慨深く読みました。県立水戸一高の40年ぶりの8強を報じたものです。

私の義父は水戸中学（現・水戸一高）の野球部員でした。昭和21年7月20日付の茨城新聞によると、3年ぶりに復活した第28回全国大会の茨城大会で、太田中学（現・太田一高）との1回戦に、水戸中学の6番レフトとして出場しています。なお、この試合は14対0で水戸中学がコールド勝ちをしています。

生前の義父はもちろん高校野球が大好きでした。特に、夏の大会が始まると、小美玉市にある自宅から50ccのバイクに乗って、県営球場や土浦市営球場へよく出掛けていきました。義父がもし元気でいたなら、後輩たちの今年の熱い戦いぶりをどんな思いで見詰めたことでしょうか。

惜しくも、水戸一高の67年ぶりの甲子園出場はかないませんでした。選手の皆さんの活躍のおかげで、義父に久しぶりに思いを馳せることができました。（かすみがうら市 吉田智美）



昭和21年7月20日付の茨城新聞
—「熱球120年水戸中学水戸一高野球部の軌跡」より—

Ⅳ シリーズ「大学野球を目指す後輩部員たちへ」

大学野球を通じて 令和3年卒 佐次 泰晟

令和3年卒の佐次泰晟です。私は現在同志社大学商学部1年で硬式野球部に所属しております。同志社大学硬式野球部は関西学生野球連盟に所属しており、阪神タイガースの佐藤輝明選手など多くのプロ野球選手を多く輩出しているリーグです。弊部は2011年以降リーグ優勝から遠ざかっています。私は昨年4月に入部してから外野手としてリーグ優勝という目標に向けて日々の練習に取り組んでいます。昨年の後輩たちの春季大会ベスト4、夏季大会ベスト8という活躍に刺激をもらっています。



今回後輩たちの更なる活躍を願い、私が大学野球を通して感じたことを伝えようと思います。弊部には部員が150人以上おり、プロ野球を目指す選手から就活に重きを置きながら練習に参加する部員など様々な選手がいます。そのような数多くの選手の中でリーグ戦に出場し活躍する選手の中にはある共通点があるように思えます。それはうまくいかにときに自分の中に原因を求められることができる選手です。野球は失敗のスポーツといわれるように、上手い

くことよりもうまくいかないことのほうが多くあります。その時に環境のせい、指導者のせい、道具のせいにしない選手は活躍しているような気がします。上手くいかないときに自分の中に原因を求めるのは簡単なことではありませんが、それが一番の成長の近道であるように感じます。変えられない環境を嘆くよりも変えられる自分自身を成長させていく、これが大切であると思います。またそのことを行うには自分で考える力も必要です。自分に原因を求め考え、修正し、成長していく。このようなサイクルを心掛けてほしいと思います。

今後の自分自身の意気込みについて述べさせていただきます。昨年春、秋と新人戦のメンバーになり、今年はリーグ戦出場を目標にしています。水戸一高

野球部の名に恥じないよう精一杯精進します。リーグ戦に出場する際には会員の皆様に関西の球場まで足を運んでいただける



令和3年11月13日(土)
令和3年度後期チャレンジトーナメント
対立命館戦で初回先頭打者左前打を放つ
(同社大学硬式野球部ホームページより)

と幸いです。ぜひ後輩たちにも関西学生野球連盟で野球を続けることを選択肢に加えていただきたいと思います。甲子園で試合ができます。

最後に三の丸倶楽部の皆様には日々ご指導、ご支

援をいただき感謝しております。少しでも水戸一高野球部に貢献できるよう努力していきます。これからも何卒ご指導・ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

V 令和3年度後半活動報告

事務局長 森 利 克

前会報第27号発行(令和3年9月1日)以降の活動状況と野球部に関わる動きを報告します。

(1) 昨年は春季大会準決勝、茨城大会準々決勝へ進出する活躍により、9月以降も新規入会や反響(新聞投稿など)が続きました。本号では、昨年9月以降の入会者(別表)と茨城新聞記事「水戸一の活躍に義父思う」を紹介しました。「知道会会員名簿」平成30年版および水府倶楽部発行「熱球120年水戸中学水戸一高野球部の軌跡」によれば、義父の方は昭和22年卒の田口敬氏の様です。

(2) 昨年10月に開催された秋季大会では、県大会へ出場できたものの、二回戦(初戦)で日立一に敗れました。

(3) 野球部からの要請により、11月には最新鋭のパソコン(約18万円)を寄贈しました。前機は10年以上前に購入したもので、苦勞していた文書作成、データ整理や解析、画像編集などがスムーズに進んでいるそうです。また、1月にはコーチへの謝礼(半年分6万円)を届けました。

(4) 昨年11月28日(日)、福島県立の伝統校磐城高校を招いて創部130周年記念試合が開催されましたので、主催した水府倶楽部の船橋幹事長に巻頭記事として紹介いただきました。三の丸倶楽部も後援(10万円拠出)し当日の広報に務めました。

(5) 一昨年、水府倶楽部として二人目となる野球殿堂入りを果たした元早稲田大学監督の石井連蔵氏(昭和26年卒)の記念碑が完成しましたので、その設置に尽力された黒木副会長に紹介記事を寄稿いただきました。すでに設置されていた飛田稲洲氏(明治40年卒)の胸像と並ぶ2体の記念碑は誇りです。

(6) 日立製作所の野球部長として貢献された昭和38年卒の川又諭さんから応援メッセージを寄稿いただきました。昨年の茨城大会4試合をすべて応援いただいたそうです。大事な所で一度失敗しても、それを挽回する努力の大切さを伝えておられます。

(7) シリーズ記事「大学野球を目指す後輩部員たちへ」では、同志社大学の外野手として活躍を始めた佐次泰晟さん(令和3年卒)に寄稿いただきました。関西学生野球連盟の新人戦やリーグ戦出場の可能性が高まっているようです。シリーズ記事「新・異・先端分野で活躍する先輩たち」は紙面制約の都合で休ませ

ていただきました。

(8) コロナ感染が依然として終息しないため、上記活動はウェブ上で幹事会を開催して計画検討し実施しました。

(9) 昨年12月29日

(水)の納会で、平成30年卒の内桶達史さんから



大学野球で学んだことを後輩部員たちへ講話いただきました。彼は横浜国立大硬式野球部の主将として神奈川大学野球連盟一部への復帰に大きく貢献されました。

(10) 今年から導入される野球部への入部を前提とした特色選抜入試では、7名の募集枠に対し、16名の志願がありました。一般入試を含め、10名以上の入部が期待されます。

(11) まもなく始まる選抜大会の21世紀枠に福島県立只見高校が選ばれました。全校生徒86人、野球部員15人(内マネージャー2人)で昨秋初めて県大会準々決勝へ進出しました。部員減少に悩む公立校には朗報です

別表 新入会員(令和3年9月以降確定分)

(敬称略)

No	氏名	居住地	備考
1	石井 直子	ひたちなか市	令和3年父母の会会員
2	出澤 琢磨	水戸市	知道会会員(平成元年卒)
3	遠藤 実	那珂市	知道会会員(昭和60年卒) 再入会
4	岡部 左知子	水戸市	令和3年父母の会会員
5	鬼澤 真一郎	水戸市	知道会会員(平成3年卒)
6	川和田 斉	水戸市	知道会会員(平成元年卒)
7	堺堀 かおり	水戸市	令和3年父母の会会員
8	高久 淳一	水戸市	知道会会員(昭和46年卒(訂正))
9	田中 孔美子	水戸市	令和3年父母の会会員
10	鶴田 孜	横浜市	知道会会員(昭和38年卒)
11	野々下 涉	ひたちなか市	令和3年父母の会会員
12	野々下 奈津子	ひたちなか市	令和3年父母の会会員
13	檜山 祐一	結城市	令和3年父母の会会員
14	檜山 智子	結城市	令和3年父母の会会員
15	横山 哲也	神奈川県鎌倉市	知道会会員(平成元年卒)

部長 小島 淳 監督 木村 優介 顧問 太田 泰助 井坂 拓海
 ヘッドコーチ 高橋 直樹 バッテリーコーチ 清水 隆弘



主将

中山 晃靖
 美野里中
 内野手



秋田 啓人
 美野里中
 内野手・投手



内田 慧登
 水戸四中
 外野手



河原井 龍樹
 水戸二中
 捕手



日下部 貴一
 東海中
 内野手



眞田 創
 那珂一中
 内野手



柴田 雄成
 美野里中
 外野手



高村 泰彰
 坂本中
 内野手



中村 颯一郎
 勝田三中
 外野手



野口 喜生
 友部二中
 投手・外野手



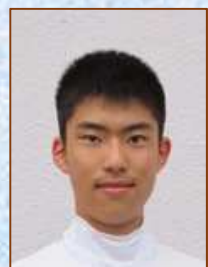
杉山 菜乃華
 勝田一中
 マネージャー



関 琢未
 那珂四中
 投手



平塚 惇和
 友部二中
 内野手



三浦 太輝
 駒王中
 外野手



村田 遼真
 緑岡中
 内野手



井澤 更紗
 友部中
 マネージャー

Ⅶ 試合結果・公式戦予定

令和3年秋季地区大会代表決定戦

試合日：令和3年10月8日(日)
 球場：ノーブルホームスタジアム水戸
 天候：晴 試合時間：2時間23分(8:25~10:48)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
波崎	1	4	0	0	0	0	0			5
水戸一	2	0	0	1	0	8	1			12

出場メンバー

1番	ライト	内田	(2年)
2番	ショート	村田	(1年)
3番	センター	中村	(2年)
4番	セカンド	中山	(2年)
5番	サード	高村	(2年)
6番	ピッチャー	野口	(2年)
	2回1/3	秋田	(2年)
7番	キャッチャー	河原井	(2年)
8番	ファースト	日下部	(2年)
9番	レフト	柴田	(2年)

二塁打：高村(1回、7回) 内田(6回)
 単塁打：中村(6回) 中山(6回)

令和3年秋季県大会二回戦(初戦)

試合日：令和3年10月15日(金)
 球場：Jcomスタジアム土浦
 天候：晴->快晴 試合時間：2時間10分(9:26~11:36)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
水戸一	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
日立一	3	0	0	0	0	0	1	2	X	6

出場メンバー

1番	ライト	内田	(2年)
2番	ショート	村田	(1年)
3番	センター	中村	(2年)
4番	セカンド	中山	(2年)
5番	サード	高村	(2年)
6番	レフト	野口	(2年)
7番	キャッチャー	河原井	(2年)
8番	ファースト	日下部	(2年)
9番	ピッチャー	秋田	(2年)
	9回ピンチヒッター	眞田	(2年)

単塁打：河原井(5回、7回) 中村(6回)

令和3年神無月杯二回戦(初戦)

試合日：令和3年11月11日(木)
 球場：水城高球場
 天候：晴 試合時間：2時間22分(12:50~15:12)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
鹿島	1	4	1	1	0	0	1	0	3	11
水戸一	1	0	0	1	2	0	0	0	0	4

出場メンバー

1番	センター	中村	(2年)
2番	ピッチャー	村田	(1年)
	3回1/3ショート		
	4回ピッチャー		
3番	ショート	高村	(2年)
	3回1/3サード		
	4回ショート		
4番	セカンド	中山	(2年)
5番	ファースト	河原井	(2年)
6番	キャッチャー	野口	(2年)
7番	ライト	内田	(2年)
8番	レフト	秋田	(2年)
	3回1/3ピッチャー		
	4回レフト		

9番 サード 眞田 (2年)
 3回1/3レフト
 4回サード

三塁打：中村(3回)
 二塁打：河原井(5回) 中山(7回)
 単塁打：高村(1回) 中山(1回、5回) 河原井(1回、7回)
 村田(6回) 野口(9回)

編集後記

コロナ禍が止まらない。マスク、手洗い、三蜜回避、旅行自粛、ホームワーク、オンライン授業、ワクチン等、withコロナ対応が日常となってしまったが、早く全校応援の元気な声を聞きたい。応援風景も高校野球ファンの楽しみのひとつなのだ。(照沼)

令和3年後半 練習試合結果

月	日	球場	結果	備考
10	2(土)	水戸農	●14-15水戸農	
	3(日)	龍ヶ崎一	●9-13龍ヶ崎一	
			○7-4 //	
	10(日)	水戸葵陵	●2-14水戸葵陵	
23(土)	勝田工	○13-8勝田工		
		○9-8 //		
11	3(水)	佐和	○4-3佐和	
			●3-5 //	日没6回終了
	21(日)	常陸大宮市民	●3-6湯本	
			○7-5 //	
	23(火)	大洗運動公園	●0-4水戸商	
28(日)	ノーブルホームスタジアム水戸	○26-4磐城		

令和4年 公式戦予定

月	予 定	備 考
4	8(金)	地区大会抽選会
	10(日)~13(水)	水戸地区大会
	18(月)	県大会抽選会
5	22(金)~24(日)、29(祝)	県大会
	1(日)、3(祝)、5(祝)	関東大会
6	22(水)	茨城大会抽選会
7	9(土)~11(月)、13(水)~15(金)、17(日)~18(祝)、20(水)、22(金)、24(日)、26(火)	茨城大会
8	6(土)~22(月)	全国選手権
9	6(火)	地区大会抽選会
	9(金)~13(火)	水戸地区大会
	16(金)	県大会抽選会
	22(木)~23(祝)、26(月)、28(水)、30(金)	県大会
10	2(日)	
	11(火)	関東大会抽選会
	22(土)~24(月)、29(土)~30(日)	関東大会

今後の試合予定は三の丸倶楽部ホームページの試合予定でご確認ください。

三の丸倶楽部

顧問：稲葉 節生 (S38年卒元茨城県教育長、
 知事会会長)

会長：鬼澤 邦夫 (S38年卒常陽銀行特別顧問)

事務局長：森 利克 (S38年卒)

幹事：照沼 貞夫 (S47年卒、H20年卒父母の会)

鹿島 陽夫 (S63年卒)

船橋 信正 (S63年卒、水府倶楽部幹事長)

飯田 芳久 (H元年卒)

浦原 博 (R元年度父母の会会長)

===== 会員を募集しています =====

◇水府倶楽部(野球部OB会)及び現野球部父母会の会員以外どなたでも入会できます。

◇特典：会員帽子の配付(入会時)
 会報(年2回)の送付
 ホームページ「試合予定」、「試合結果」情報の閲覧など

◇年会費：一口 3,000円(何口でも可)

◇振込先：常陽銀行本店営業部

普通 2945619

サンノマルクラブ カイケイ カシマタカオ

◇手続き：氏名、住所、TEL番号、メールアドレスを下記までご連絡ください。

森利克 Tel/Fax: 0294-53-1351

E-mail: ihm2158@ak.wakwak.com